

国際社会の中の

沖縄奄美

2017
4.29 (土)

AM9:00 開場・10:00 開始
PM5:00 終了

参加費無料 (一般・学生歓迎)

会場：東京都千代田区神田駿河台 1-1 明治大学リバティータワー 1F・リバティーホール

今年、沖縄は本土復帰から 45 年目を迎えます。沖縄・奄美社会は本土復帰後、多くの変化を受容してきました。かつての集落景観や伝統文化・社会構造も大きく変わりながら再生・創造の道を歩んできました。明治大学島嶼文化研究所では設立記念として、長年、沖縄・奄美研究に携わってこられた二人の巨匠、渡邊欣雄先生、クライナー・ヨーゼフ先生に、「現在、関心のあるテーマ」について講演を依頼しました。また、午前の部では、現在、沖縄・奄美でフィールドワークを続けている文化人類学・民俗学分野の研究者に、その多様なテーマを紹介していただきます。国際社会の変化の中で、今一度、沖縄・奄美の文化・社会を振り返り、今後の南西諸島研究の水平をみつめる一日にしたいと考えています。

第 I 部 パネルディスカッション「沖縄・奄美における研究動向」 AM10:00~PM12:30

司会 碓陽子 (明治大学) 発表者順演題 (各 20 分予定)

山内健治 (明治大学) 「基地問題と聖地」

吉田佳世 (日本学術振興会特別研究員) 「女性からみる沖縄」

泉水英計 (神奈川大学) 「50 年代沖縄のヒストリオグラフィー」

加賀谷真梨 (新潟大学) 「老いに向きあう人々—
高齢者ケアにみる沖縄社会」

村松彰子 (相模女子大学) 「沖縄の信仰と“つながり”のありよう」

福岡直子 (豊島区立郷土資料館) 「奄美の『民俗誌』の現在」

越智郁乃 (立教大学) 「沖縄の墓—“継承”という名の“創造”」

第 II 部 特別記念講演 PM1:30~5:00

第一講演 渡邊欣雄 氏

PM1:30~2:30 首都大学東京名誉教授・明治大学島嶼文化研究所客員研究員

演題 「グローバル沖縄—ホスト&ゲスト」

第二講演 クライナー・ヨーゼフ 氏

PM2:40~3:40 ドイツ・ボン大学名誉教授・法政大学国際日本学研究所客員研究員

演題 「私の見てきた沖縄・奄美」

●質疑応答・総括 (PM5:00 まで)



◎懇親会 PM 5:00 明治大学内・宮城記念ホール (事前予約歓迎・下記連絡先まで)

主催：明治大学島嶼文化研究所 連絡先：明治大学島嶼文化研究所 (山内：yamauchi@meiji.ac.jp TEL. 03-3296-2140)

後援：琉球新報社・沖縄タイムス社・南日本新聞社・南海日日新聞社・奄美新聞社

KAKEN 助成事業

科研費
KAKENHI

明治大学島嶼文化研究所設立のご挨拶

明治大学島嶼文化研究所（明治大学・研究知財戦略機構・特定課題研究）を設立いたしました。研究所の設立趣旨は次の通りであります。島国日本はまずもって海に囲まれた自然地理環境にあり、多くの離島により構成されています。ある島では過疎化や地域産業の再生になやんでいます。また、豊かな文化を育んできた島々も、その後継者不足により伝統文化そのものの変容を余儀なくされている場合もあります。さらに日本列島そのものがグローバル化の波に巻き込まれて久しいのですが、多くの離島も国際社会の変化と無縁ではなくなっています。明治大学では離島研究に携わった多くの先人達があります。とりわけ文化人類学・民俗学・歴史学・経済学他、学際的に南西諸島を対象とした研究蓄積があります。その研究を礎に、今後、さらに国際的視点の中から離島社会・南西諸島の研究を発展させると同時に、その成果を島々に還元していきたいと考えております。学内外の関係各機関・人材と連携をとり研究所の充実をはかりたい所存です。よろしくお願ひ申し上げます。（文責：研究所代表・山内健治）



●特別記念講演講師・略歴

渡邊欣雄

首都大学東京名誉教授



本土復帰前の1969年より沖縄本島東村の社会人類学的調査を開始する。埼玉大学教養学部卒業後、東京都立大学大学院博士後期課程単位取得後、跡見学園女子大学、武蔵大学、東京都立大学教授、中部大学、國學院大学専任教授を歴任。2012年、首都大学東京名誉教授。日本文化人類学会会長ほか日本の文化人類学・民俗学を牽引してきた。1985年、伊波普猷賞受賞。主な著作：『沖縄の社会組織と世界観』（新泉社）、『沖縄の祭礼—東村民俗誌』（第一書房）、『風水思想と東アジア』『民俗知識論の課題—沖縄の知識人類学』（凱風社）『世界のなかの沖縄文化』（沖縄タイムス社）ほか多数。専門研究領域は沖縄・中国。



クライナー・ヨーゼフ

ドイツ・ボン大学名誉教授

オーストリア・ウィーン出身。1961年、ウィーン大学卒業後、東京大学東洋文化研究所へ留学、1962年より加計呂麻島調査開始する。1964年に同大学にて哲学博士号取得後、ウィーン大学・ボン大学教授を歴任。また、日本文化研究所所長ほか近現代日本研究センター長も勤めた。ヨーロッパの民族学者として長年、沖縄・奄美、波照間島ほか南西諸島研究に従事する傍ら世界から見た日本研究を精査してきた。主な著作：『世界の沖縄学—沖縄研究50年の歩み』（芙蓉書房出版）、『南西諸島の神観念』（住谷一彦共著・未来社）、編著『日本民族の現在』（新曜社）、『地域性からみた日本』（新曜社）、『日本とはなにか日本民族学の二〇世紀』（東京堂出版）ほか多数。2016年、50年以上前の奄美大島の集落・伝統行事を記録したフィルムを起こして写真集『加計呂麻島』（南方新社）を出版する。専門研究領域は日本。

